

# 園児がお茶摘み体験 有都こども園



お茶摘みをする園児

5月16日、有都こども園の5歳児15人が、上津屋橋(流れ橋)付近の茶畑でお茶摘みを体験しました。

同体験は、園児に地元の特産である碾茶など、お茶に親しんでもらおうと、茶農家の協力を得て実施されています。

はじめに、園児はお茶の種類や茶葉の加工工程を勉強。実際に煎茶や紅茶の茶葉や、碾茶をひいて粉にした抹茶を触ったり、匂いをかいだりして、感想を言い合っていました。

次に、新芽から2枚目の茶葉までを摘み取る「一芯二葉」という摘み方を教わった園児は、茶畑に入り実践。「いっしん、よう」と口に出して葉の枚数を数えながら、丁寧に摘み取っていました。首から下げた容器が摘み取った茶葉でいっぱい



茶葉を手で触る園児

になると、友だち同士、笑顔で見せ合っていました。齊藤勇人くん(5)は「新しい葉っぱを探すのが難しかったけど、楽しかった」と話していました。



特設の献灯台に並べられた祈願ろうそくと御本社

## 石清水灯燎華 5年ぶり開催

石清水八幡宮で5月4日、夜の特別参拝「石清水灯燎華」が開催されました。コロナ禍などを経て5年ぶりの開催となった今年、恒例の祈願ろうそくの献灯や神職の案内による夜間の昇殿参拝などを実施。御神前には、全国からよせられた約1000本の祈願ろうそくがともされ、国土安穏や世界平和、地震の被災地復興を願う行事も斎行されました。

## まちの話題

### 長野五輪金メダリスト 清水宏保さん講演

限界に挑み続けて、未来に向けた健康へのメッセージ



来場者を前に講演する清水宏保さん

生涯学習開講式記念講演会が5月19日、生涯学習センターで開催。元スピードスケート選手で1998年長野五輪金メダリストの清水宏保さんが「限界に挑み続けて、未来に向けた健康へのメッセージ」をテーマに講演し、2000人が耳を傾けました。

## 年齢に関係なく情熱を持って。挑戦は人生最高の時間

「分だけ」と考えるのではなく、どんな工夫ができるかを考えた」と振り返りました。引退後、競技経験を健康寿命の伸長に活かしたいと、高齢者のリハビリ施設やスポーツジムなどを運営。「どうありたいかをイメージすると、結果が変わる。競技もリハビリも同じ。目標をもって改善するという当たり前を継続できるかが大切」と伝えました。転倒予防のための体操やスクワットを、来場者と一緒に行った清水さん。「年齢に関係なく情熱を持って。挑戦は人生最高の時間」と、締めくくりました。

このページでは、市民の皆さんの活躍やまちの話題などを紹介しています。身近な話題や、広報紙についての意見を、秘書広報課までお寄せください。

## 今月のこの人

### ネギで国内初「グローバルGAP」団体認証取得

#### ねぎ出荷組合 京・はちまん



京都やましろ農業協同組合 ねぎ出荷組合京・はちまん GLOBAL G.A.P. 認証取得記念式典

平成23年設立。八幡市、久御山町のネギ生産者6人で構成され、大手コンビニチェーンや加工販売業界に九条ネギを周年で出荷する府内屈指の生産組合。

食品安全や労働環境、環境保全に配慮した「持続可能な農業生産活動」の国際基準の認証規格「グローバルGAP(農業生産工程管理)バージョン6」の団体認証を、地元のねぎ出荷組合が今年4月、国内で初めて取得されました。古里治彦代表=写真前列右から3人目=は「労働環

境や環境保全への配慮は新しい視点。持続可能な農業の実現に、この認証規格が業界の常識になると思う」と語ります。食の安心・安全と農業の持続性を進める企業の増加に伴い、信頼性と販路の確保のため、認証取得を決意しました。環境への配慮と異物混入

防止対策に、作業場の照明をLEDに替えたほか、肥料の投入過多防止のための土壌分析、降雨による流亡を防ぐマルチ栽培を実施。さらに、栽培方法を統一することで、品質と出荷量の安定化を図るなど、同組合員の努力により計190項目の基準を達成しました。今後は「京都を代表する生産組合を目指し、農業の新しい形を伝えて働き手の意欲につなげ、業界を発展させたい」と話しました。